

斑点米カメムシ類情報第2号

令和5年7月18日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

水田内でのイネカメムシの発生がやや多い状況です

1 発生状況

7月下旬に県内47地点93ほ場で行った20回すくい取り調査において、本田における斑点米カメムシ類の捕獲数は、平均0.85頭（平年0.93頭、昨年1.18頭）と過去10年間と比較して平年並の状況です。しかし、イネカメムシの捕獲数は、過去10年間で発生の多かった昨年、一昨年に次いで多く、本年も注意が必要です。また、畦畔雑草における斑点米カメムシ類の捕獲数は平年並ですが、クモヘリカメムシの捕獲数がやや多い状況です。

2 防除対策

イネカメムシは、出穂期に糞を吸汁し不稔糞を生じさせることから、発生すると減収につながります。その他の斑点米カメムシ類と比べて加害する時期が早いため、防除のタイミングに注意しましょう。前年に本種の発生がみられたほ場では、表を参考にして出穂期に効果が現れるように薬剤防除を実施しましょう。

その他の斑点米カメムシ類についても、畦畔や水田内をよく観察し、発生が多い時は出穂期前後から穂揃期に薬剤防除を実施しましょう。

イネカメムシ、その他の斑点米カメムシとも、1回目の防除後も発生が多い場合は7日から10日後に再度防除しましょう。

なお、斑点米カメムシ類は、主に水田畦畔のイネ科雑草が発生源となるので、出穂2～3週間前までに除草を徹底しましょう。ただし、出穂直前の除草は本田にカメムシを追い込むおそれがあるため、注意しましょう。水田内で穂をつけたヒエ類なども発生を助長するので除去しましょう。

また、使用する薬剤により散布適期が異なるので注意しましょう。

表 斑点米カメムシ類に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	IRAC コード
トレボン EW	収穫14日前まで	3回以内	3 A
キラップフロアブル キラップ粒剤	収穫14日前まで	2回以内	2 B
スタークル／アルバリン顆粒水溶剤 スタークル液剤10 スタークル／アルバリン粒剤	収穫7日前まで	3回以内	4 A
スタークル豆つぶ エクシードフロアブル エクシード粉剤DL	収穫7日前まで	3回以内	4 C

キラップ粒剤の散布適期は、出穂10日前から出穂期までなので注意しましょう。

成分ごとの総使用回数に注意しましょう。

IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示します。

IRAC コードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdf を参照しましょう。

薬剤の使用に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。